

2023年度 第2四半期決算 電話会議 資料

2023年11月17日（金）

MS&AD

INSURANCE GROUP

MS&AD Insurance Group Holdings, Inc.

1

本日のポイント（2023年度第2四半期）

- 正味収入保険料は、前年同期比1,737億円（+8.3%）増収の2兆2,700億円
- 中間純利益は886億円増益の875億円。グループ修正利益は721億円増益の1,120億円

国内損保事業	アード保険料が増加したことに加え、新型コロナ関連ロスの減少、大口ロスの減少、資産運用益の増加などにより増益
国内生保事業	MSA生命は新型コロナ関連の給付金の減少により増益。MSP生命は外貨建て保険に係る責任準備金繰入負担の増加などにより減益
海外事業	MS Amlinを中心に増収したこと、自然災害ロスや新型コロナ関連ロスの減少により増益

※ 2023年度期首より、国際財務報告基準（IFRS）を適用している在外連結子会社及び在外持分法適用会社において、IFRS第17号「保険契約」を適用しており、2022年度第2四半期に係る数値は当該会計基準を遡及適用した後の数値となっております。

- 通期の予想は、連結当期純利益が△200億円引下げの2,800億円、グループ修正利益が△700億円引下げの2,800億円

国内損保事業	上期の自然災害ロス増加、大口ロスの発生、インフレ影響を含む自動車一般ロスの増加などにより△410億円の引下げ
国内生保事業	MSA生命は年初予想から変更なし。MSP生命は利ざやの増加やヘッジなどのリスクコントロールにより、年初予想から変更なし
海外事業	MS Amlinは為替影響を除くと年初予想どおりの着地を見込むほか、アジア事業も好調に推移しているものの、ADの自然災害ロス増加や欧州における収支悪化などもあり△300億円の引下げ

株主還元	年間配当予想240円は据え置き、中間配当120円、自己株式取得100億円を決定
------	---

MS&AD Insurance Group Holdings, Inc.

2

目次

2023年度第2四半期決算の概要

グループ連結	P4-9
国内損害保険会社	P10-13
国内生命保険会社	P14-16
海外保険子会社	P17-19
資料	P20-27

2023年度業績予想

グループ連結	P29-33
今回業績予想の主な前提	P34
国内損害保険会社	P35-36
国内生命保険会社	P37-39
海外保険子会社	P40-42
資料	P43-47

※ 決算データにつきましては、当社ホームページに掲載しています「国内損保決算データ集(Excelファイル)」を
あわせてご参照ください

グループ連結

① トップライン

- 正味収入保険料は、海外保険子会社の増収を主因に増収
- 国内損保は、火災保険が前期の大幅増収の反動で減収。海外保険子会社は、MS Amlinの増収を主因に1,942億円の増収（除く為替影響では1,342億円の増収）

損保子会社

(億円)

	2022年度 第2四半期	2023年度 第2四半期	増収率	
			前年同期比	増収率
元受正味保険料（除く収入積立保険料）	22,262	23,674	1,411	6.3%
正味収入保険料	20,962	22,700	1,737	8.3%
三井住友海上	8,570	8,377	△ 193	△ 2.3%
あいおいニッセイ同和損保	6,955	6,940	△ 15	△ 0.2%
三井ダイレクト損保	170	170	0	0.3%
海外保険子会社	5,264	7,206	1,942	36.9%

生保子会社

(億円)

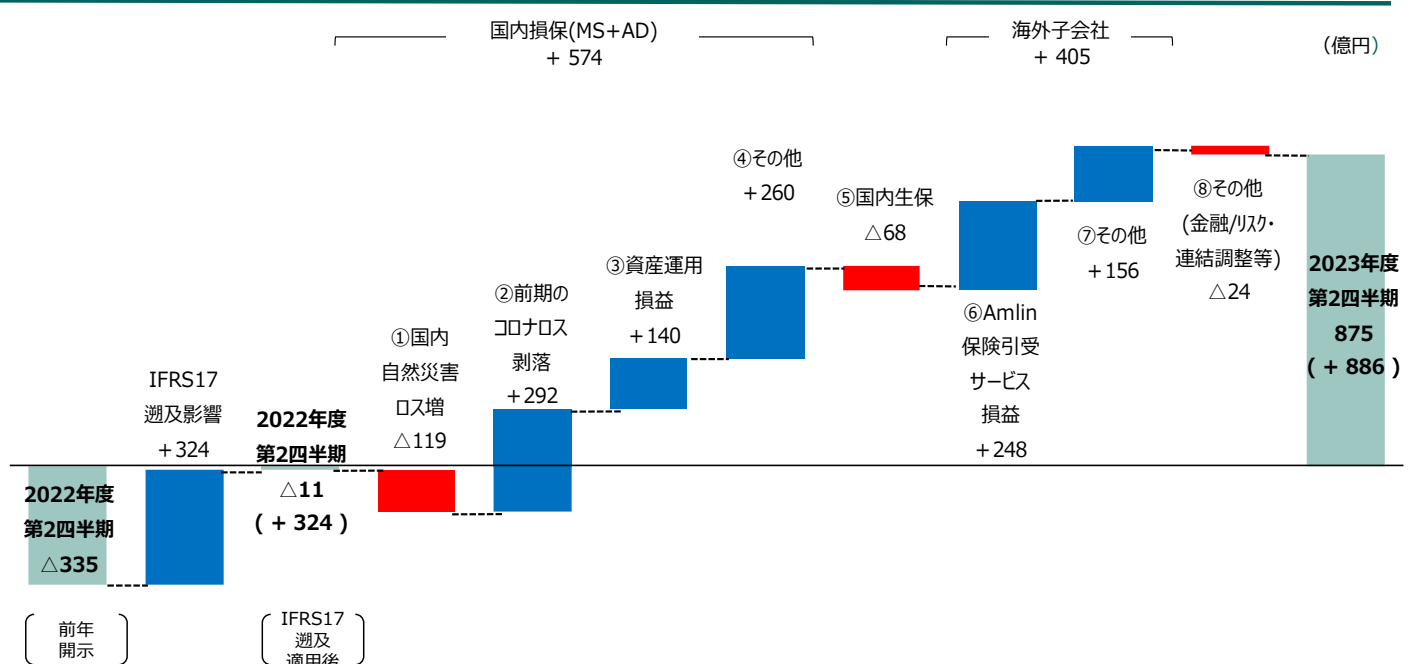
	2022年度 第2四半期	2023年度 第2四半期	増収率	
			前年同期比	増収率
保険料（グロス収入保険料）※	7,724	8,912	1,188	15.4%
三井住友海上あいおい生命	2,437	2,367	△ 69	△ 2.9%
三井住友海上プライマリー生命	5,286	6,545	1,258	23.8%
生命保険料	△ 120	4,760	4,880	-

※ 保険料（グロス収入保険料）は国内生保子会社のみ

② ボトムライン

- 国内損保は、国内自然災害ロス(①)は増加したものの、新型コロナ関連ロスの減少(②)、資産運用損益の増加(③)などにより、574億円増益
- 国内生保(⑤)は、MSA生命が106億円の増益となったものの、MSP生命が△175億円減益となったため△68億円減益
- 海外保険子会社は、MS Amlinの保険サービス損益が、堅調なトップラインおよびポートフォリオの収益性改善効果、ロシア・ウクライナ関連ロスの減少などにより増加したこと(⑥)、アジアにおける新型コロナ関連ロスの反動を含む収支の良化など(⑦)により405億円増益

連結中間純利益



③ボトムライン（会社別利益の内訳）

(億円)

	2022年度	2023年度			2023年度通期予想	
	第2四半期	第2四半期	前年同期比	増減率	(今回予想)	進捗率
経常利益	238	1,314	1,075	450.8%	4,000	-
三井住友海上	250	861	610	243.7%	1,800	-
あいおいニッセイ同和損保	△ 166	38	204	-	820	-
三井ダイレクト損保	22	△ 12	△ 34	△ 154.3%	-	-
三井住友海上あいおい生命	105	253	148	140.9%	-	-
三井住友海上プライマリー生命	149	△ 97	△ 247	△ 165.4%	-	-
海外保険子会社	126	527	400	315.2%	-	-
その他・連結調整等	△ 249	△ 256	△ 6	-	-	-
中間純利益※	△ 11	875	886	-	2,800	31.3%
三井住友海上	248	651	403	162.2%	1,350	48.3%
あいおいニッセイ同和損保	△ 154	16	171	-	560	3.0%
三井ダイレクト損保	20	△ 9	△ 29	△ 145.6%	△ 19	-
三井住友海上あいおい生命	60	166	106	177.0%	250	66.7%
三井住友海上プライマリー生命	89	△ 86	△ 175	△ 196.1%	160	△ 53.8%
海外保険子会社	4	409	405	-	1,020	40.2%
その他・連結調整等	△ 279	△ 274	5	-	△ 521	-

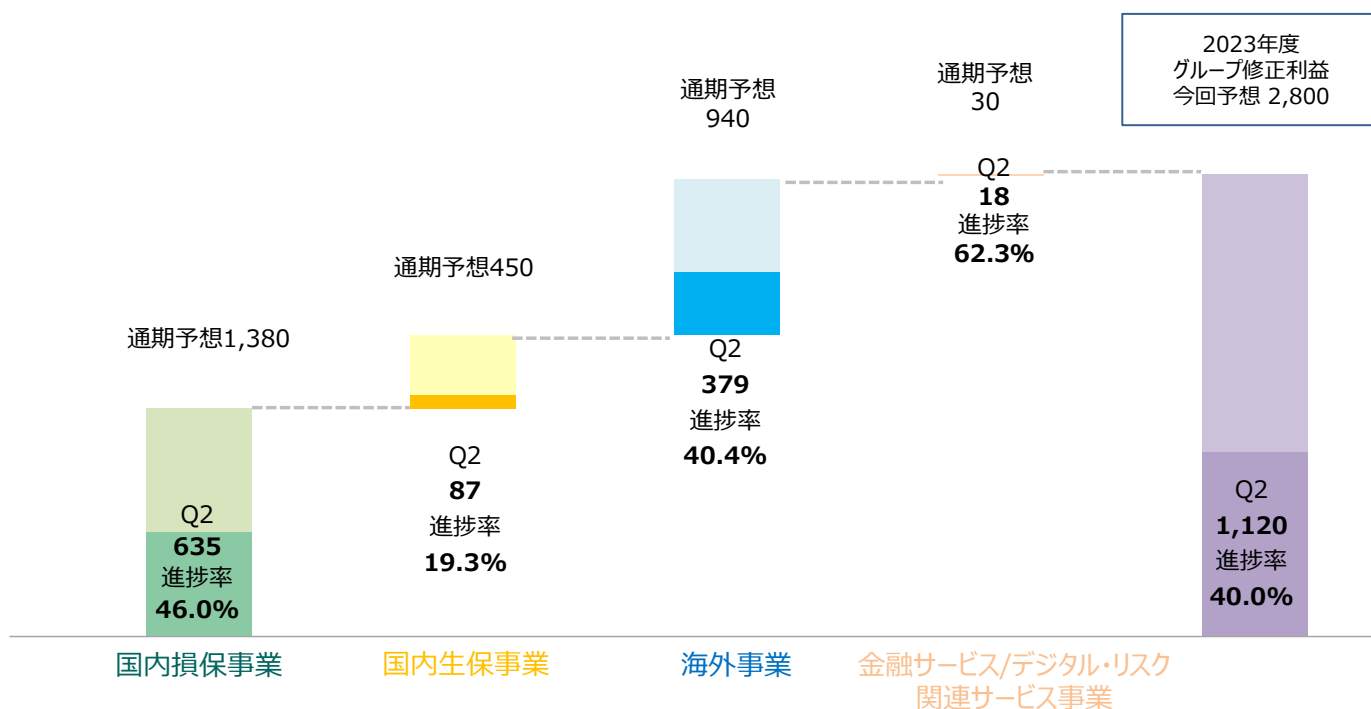
※連結の中間純利益は、親会社株主に帰属する中間純利益 子会社の中間純利益は出資持分ベース（以下同じ）

④ボトムライン（グループ修正利益）

- グループ修正利益は、今回予想2,800億円に対し、進捗率40.0%の1,120億円
- 国内損保は46.0%、海外事業は40.4%の進捗率。国内生保はMSP生命の進捗が低く、19.3%の進捗率にとどまる

グループ修正利益の四半期進捗

(億円)



⑤ボトムライン（グループ修正利益の内訳）

（億円）

	2022年度 第2四半期		2023年度 第2四半期		2023年度通期 （今回予想）	
	前年開示金額	IFRS第17号 遡及適用後		前年同期比 ^{※1}		進捗率
グループ修正利益	74	398	1,120	721	2,800	40.0%
国内損保事業	270	269	635	365	1,380	46.0%
国内生保事業	166	166	87	△79	450	19.3%
海外事業	△362	△37	379	416	940	40.4%
金融サービス事業/デジタル・リスク関連事業	0	0	18	18	30	62.3%

※1 IFRS第17号遡及適用後の前年同期数値と比較している

（参考）

$$\begin{array}{c} \text{グループ} \\ \text{修正利益} \\ \mathbf{1,120} \end{array} = \begin{array}{c} \text{連結} \\ \text{中間純利益} \\ \mathbf{875} \end{array} + \begin{array}{c} \text{異常危険準備金等} \\ \text{繰入・戻入額}^{\text{※2}} \\ \mathbf{27} \end{array} - \begin{array}{c} \text{その他} \\ \text{特殊要因}^{\text{※3}} \\ \Delta \mathbf{214} \end{array} + \begin{array}{c} \text{非連結} \\ \text{グループ会社} \\ \text{持分利益} \\ \mathbf{2} \end{array}$$

※2 繰入の場合は加算、戻入の場合は減算

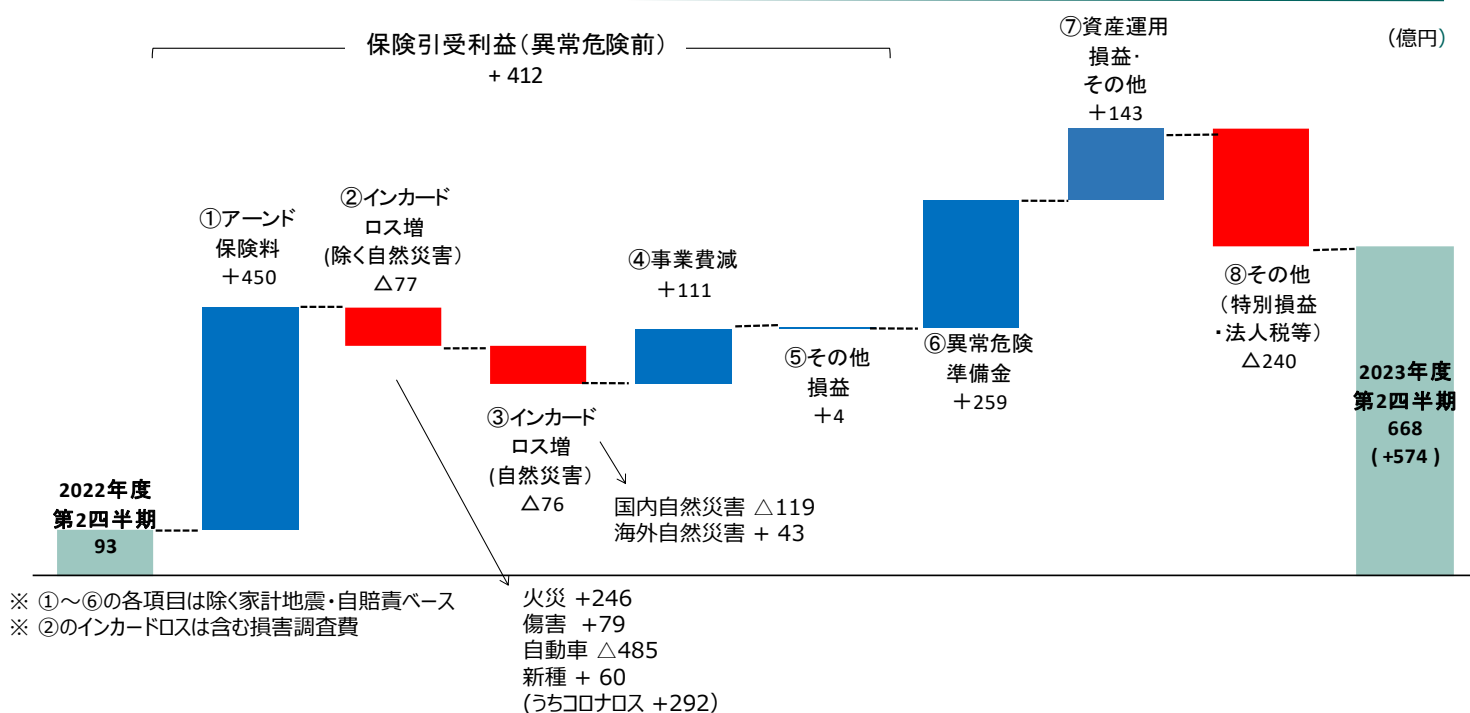
※3 のれん償却等△174

国内損害保険会社

①ボトムライン (MS+AD)

- 保険引受利益(異常危険前)は、自動車保険のロスや自然災害ロスが増加したものの、アード保険料の増加、新型コロナ関連ロスの剥落、大口ロスの減少により増益
- 資産運用損益は、利配収入の増加や有価証券売却益の増加により増益

中間純利益(MS+AD)



②自然災害の状況

- 国内自然災害は、前年同期と比較して2社計で119億円の増加
- 海外自然災害は、ハリケーン・イアのロスを追加計上した前期と比較して $\Delta 262$ 億円の減少

国内自然災害の影響

	インカードロス			インカードロス 通期予想 (今回予想)	(参考：第2四半期) 出再控除前	
	2022年度 第2四半期	2023年度 第2四半期	前年同期比		台風2号	166
三井住友海上	494	560	65	710	7月豪雨	156
あいおいニッセイ同和損保	404	458	53	560	7月群馬雹災	279
合計	899	1,019	119	1,270	台風7号	121

海外自然災害の影響

	インカードロス			インカードロス 通期予想 (今回予想)
	2022年度 第2四半期	2023年度 第2四半期	前年同期比	
あいおいニッセイ同和損保	204	175	$\Delta 29$	242
MS Amlin	56	101	45	322
上記以外の子会社	13	-	$\Delta 13$	
海外子会社の自然災害追加計上影響額 ^{※1}	265	-	$\Delta 265$	
合計	540	277	$\Delta 262$	564

※1 海外保険子会社(12月決算)の2022年度第3四半期に発生した北米ハリケーン・イアに係る追加計上額

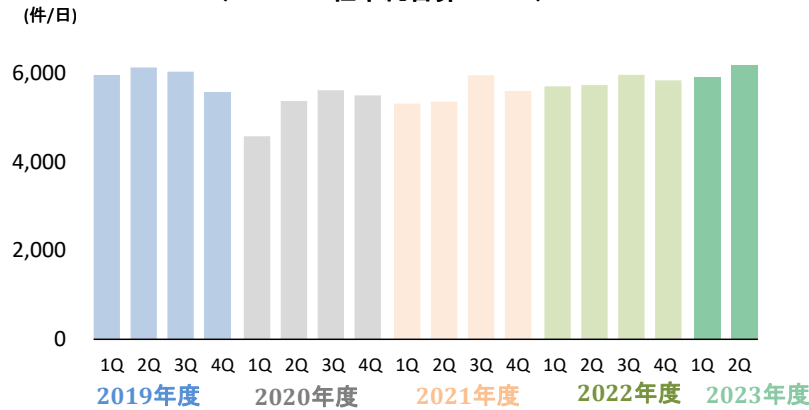
※ 海外自然災害の集計範囲は社内管理ベース

③自動車保険の状況

- 2023年度第2四半期の事故件数は、前年同期比5.8%の増加
- EI損害率は7.1pt上昇の70.6%

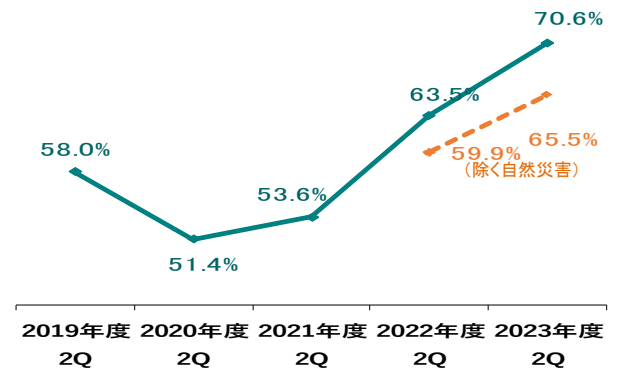
事故件数の推移（国内、1日あたり、除く自然災害）

（MS・AD 2社単純合算ベース）



EI 損害率^{※1}の推移（含む損害調査費）

（MS・AD 2社単純合算ベース）



保険料・保険金

三井住友海上

<国内・営業ベース>	契約台数	保険料単価	保険料
保険料増減要因 ^{※2}	+0.3%	+0.8%	+1.2%
<国内>	対物	車両（除く自然災害）	
保険金単価増減 ^{※3}	+7.4%	+3.8%（注）	

あいおいニッセイ同和損保

<国内・営業ベース>	契約台数	保険料単価	保険料
保険料増減要因 ^{※2}	+0.2%	+0.4%	+0.8%
<国内>	対物	車両（除く自然災害）	
保険金単価増減 ^{※3}	+5.4%	+4.4%	

※1 EI損害率算出対象期間は、各年度の4-9月

※2 保険料増減要因の諸数値は営業成績ベース（4-9月）の対前年同期比

※3（今回より算式を変更）保険金単価の増減は、2022年9月末過去1年間の保険金単価に対する、2023年9月末過去1年間の保険金単価の増減を表示

（注）特殊要因補整後

国内生命保険会社

①三井住友海上あいおい生命

- 新契約年換算保険料は、ガン保険の販売好調や引受基準緩和型医療保険の投入により前期比+2.2%
- 中間純利益は、新型コロナによる給付金の減少を主因に106億円の増益

三井住友海上あいおい生命

(億円)

	2022年度		2023年度		
	第2四半期		第2四半期		
			前年同期差	増減率	
新契約高 (個人合計)		7,474	6,664	△ 809	△ 10.8%
新契約年換算保険料		133	136	2	2.2%
うち 第三分野		61	69	8	13.7%
保有契約高 (個人合計)	(期首)	232,499	228,896	(期首比) △ 3,602	△ 1.5%
保有契約年換算保険料	(期首)	4,405	4,380	(期首比) △ 24	△ 0.6%
うち 第三分野	(期首)	1,575	1,600	(期首比) 24	1.6%
保険料 (グロス収入保険料)		2,437	2,367	△ 69	△ 2.9%
経常利益		105	253	148	140.9%
特別損益		△ 6	△ 7	△ 0	-
中間純利益		60	166	106	177.0%
基礎利益 ※1		86	195	109	126.0%
EEV ※2	(期首)	9,080	8,829	(期首比) △ 250	
参考: EEV(UFR適用した場合)	(期首)	9,467	8,911	(期首比) △ 556	

※1 2023年度第1四半期から、基礎利益上における為替に係るヘッジコストの算出方法を変更しております
これに伴い、2022年度第2四半期も同じ方法により算出した数値で記載しております

※2 第2四半期のEEVは、一部簡易な計算による試算値。また、第三者機関の検証は受けていない

②三井住友海上プライマリー生命

- グロス収入保険料は、好調なマーケット環境等を背景に23.8%増収し、第2四半期としては過去最高の6,545億円
- 中間純利益は、保有契約の増加等により利息及び配当金収入は増加したものの、外貨建て保険に係る責任準備金繰入負担の増加などにより△175億円減益の△86億円

三井住友海上プライマリー生命

(億円)

	2022年度		2023年度		
	第2四半期		第2四半期		
			前年同期比	増減率	
新契約高 (個人合計)		5,471	6,993	1,521	27.8%
保有契約高 (個人合計)	(期首)	69,322	76,917	(期首比) 7,595	11.0%
保険料 (グロス収入保険料)		5,286	6,545	1,258	23.8%
経常利益		149	△ 97	△ 247	△ 165.4%
特別損益		△ 20	△ 23	△ 2	-
価格変動準備金繰入・戻入		△ 20	△ 23	△ 2	-
中間純利益		89	△ 86	△ 175	△ 196.1%

金利・為替影響

(億円)

	2022年度	2023年度
	第2四半期	第2四半期
金利影響	△ 704	△ 552
為替影響	392	155
合計	△ 312	△ 396

※ 当期の価格変動準備金は法定繰入のみ実施

海外保険子会社

①業績概要

- 正味収入保険料は、新規引受の拡大や保険料率の引上げ等により増収したMS Amlinを含む欧州をはじめ、アジア、米州ともに増収
- 中間純利益は、405億円の増益(前年開示金額比では730億円の増益)。
- アジアは、コロナロスの反動を含む収支の良化などにより110億円の増益。欧州は、MS Amlinが前期同水準となったものの、ADの欧州子会社の減益などにより△40億円の減益

海外保険子会社

(億円)

	2022年度 第2四半期		2023年度 第2四半期		
	前年開示金額	IFRS第17号 遡及適用後		前年同期比 ※1	増減率
正味収入保険料	5,256	5,264	7,206	1,942	36.9%
アジア	1,088	1,106	1,225	118	10.8%
欧州	3,848	3,838	5,575	1,736	45.2%
米州	319	319	406	86	27.2%
中間純利益	△ 320	4	409	405	-
現地決算期ベース利益	△ 60	264	409	145	55.0%
アジア	93	94	204	110	117.2%
欧州	△ 214	126	86	△ 40	△ 31.7%
米州	2	10	21	10	99.7%
海外生保	58	32	97	64	196.9%
自然災害追加計上影響額 ※2	△ 259	△ 259	-	259	-

※1 IFRS第17号遡及適用後の前年同期数値と比較している

※2 海外保険子会社(12月決算)の2022年度第3四半期に発生した北米ハリケーン・イアンに係る追加計上による税引後利益影響額

② (ご参考) MS Amlin (2023年1-6月期)業績概要※1

- 保険サービス損益は、トップラインの堅調な進捗およびポートフォリオの収益性改善の効果、ロシア・ウクライナ関連ロスの減少等により、前年同期比147百万ポンド改善した
- 金融損益は、投資損益（従来の資産運用損益）が前年同期比で大きく改善した一方、昨年金利が大きく上昇したことに伴う保険負債の割引額の反動により、前期同期比△128百万ポンドとなった
- その他損益は、過年度保険負債の移転に伴う一過性の影響を主因に△54百万ポンドとなった

(百万ポンド)

	2022年度 第2四半期 (IFRS17適用後)	2023年度 第2四半期	前年同期比
保険サービス損益	10	156	147
金融損益	108	△20	△128
うち投資損益	△116	68	184
うち保険金融費用（金利変動）（△）	226	4	△222
うち保険金融費用（利息相当等）（△）	△2	△92	△90
その他損益	△9	△54	△45
中間純利益	71	70	△2

【MS Amlinの保険負債に関する補足】

新会計基準では、保険負債は現在価値に割引いて評価される収支上の影響は以下のとおり

- 当年度引受分の保険負債および過年度引受分の保険負債の変動に係る割引は「保険サービス損益」で認識される
- 過年度引受分の保険負債について、金利変動による割引効果の変動および時間が経過することによる割引額の減少は「保険金融費用」で認識される

【参考】保険サービス損益の主な内訳等※2

正味収入保険料	2,193	3,181	988
アード保険料	1,388	1,933	545
インカードロス(割引後)	892	1,084	192
手数料・社費	504	687	183
EI 損害率	64.3%	56.1%	△8.2pt
EI 事業費率	36.3%	35.5%	△0.8pt
EI コンバインド・レシオ	100.6%	91.6%	△9.0pt

大口自然災害ロス (割引前)

(百万ポンド)

2022年度 第2四半期	2023年度 第2四半期	前年同期比
35	60	25

※1 現地管理ベース（当期から主要現法の単純合算値としている）。なお、過年度保険負債移転に係る出再保険料等は保険勘定から除く

※2 正味収入保険料はIFRS4ベース。アード保険料以下は保険サービス損益の内訳を従来の表示区分に組み替えている。ただし、インカードロスが割引後であるなど、取扱いはIFRS17ベース

正味収入保険料

(億円)

	2社合計(単純合計)			三井住友海上(単体)		あいおいニッセイ 同和損保(単体)	
	2022年度 第2四半期	2023年度 第2四半期	増収率	2023年度 第2四半期	増収率	2023年度 第2四半期	増収率
火災	2,932	2,383	△18.7%	1,318	△15.7%	1,065	△22.2%
海上	430	418	△2.8%	393	△0.8%	25	△25.8%
傷害	1,127	1,164	3.2%	841	4.2%	323	0.8%
自動車	7,273	7,501	3.1%	3,466	0.7%	4,034	5.3%
自賠責	1,369	1,350	△1.4%	692	△2.0%	658	△0.8%
その他	2,392	2,499	4.5%	1,665	0.7%	834	12.9%
合計	15,526	15,318	△1.3%	8,377	△2.3%	6,940	△0.2%
除く家計地震・自賠責	14,155	13,966	△1.3%	7,684	△2.3%	6,282	△0.2%

国内損害保険 主要2社 種目別EI損害率(①2社合算ベース)

EI損害率(2社単純合算)

	EI損害率			EI損害率(除く自然災害影響)		
	2022年度 第2四半期	2023年度 第2四半期	前年同期比	2022年度 第2四半期	2023年度 第2四半期	前年同期比
火災 (除く家計地震)	106.8%	87.9%	△18.9pt	71.0%	56.9%	△14.1pt
海上	63.6%	55.9%	△7.7pt	63.4%	55.7%	△7.7pt
傷害	70.0%	57.1%	△12.9pt	70.0%	57.1%	△12.9pt
自動車	63.5%	70.6%	7.1pt	59.9%	65.5%	5.6pt
その他	73.3%	69.5%	△3.8pt	72.6%	67.6%	△5.0pt
合計 (除く家計地震・自賠責)	73.4%	72.1%	△1.3pt	64.9%	63.3%	△1.6pt

※ インカドロス=正味支払保険金+損害調査費+支払備金積増額

※ EI損害率の分母となるアード(既経過)保険料は、未経過保険料(除く自然災害責任準備金)・保険料積立金等を調整して算出

※ 「自然災害影響」は、当年度発生国内自然災害および海外自然災害のインカドロスの金額

EI損害率（三井住友海上（単体）、あいおいニッセイ同和損保（単体））

	EI損害率				EI損害率（除く自然災害影響）			
	三井住友海上（単体）		あいおいニッセイ同和損保（単体）		三井住友海上（単体）		あいおいニッセイ同和損保（単体）	
		前年同期比		前年同期比		前年同期比		前年同期比
火災 （除く家計地震）	79.2%	△22.6pt	99.2%	△13.8pt	55.2%	△17.9pt	59.0%	△9.4pt
海上	54.6%	△6.7pt	70.1%	△18.5pt	54.4%	△6.6pt	70.1%	△18.5pt
傷害	56.2%	△14.6pt	59.5%	△8.6pt	56.2%	△14.6pt	59.5%	△8.6pt
自動車	70.0%	6.1pt	71.1%	7.9pt	64.4%	4.0pt	66.5%	7.0pt
その他	64.8%	△3.8pt	79.5%	△4.2pt	62.9%	△4.9pt	77.5%	△5.7pt
合計 （除く家計地震・自賠償）	68.5%	△3.6pt	76.6%	1.6pt	61.1%	△4.1pt	66.1%	1.6pt

※ インカドロス＝正味支払保険金＋損害調査費＋支払備金増額

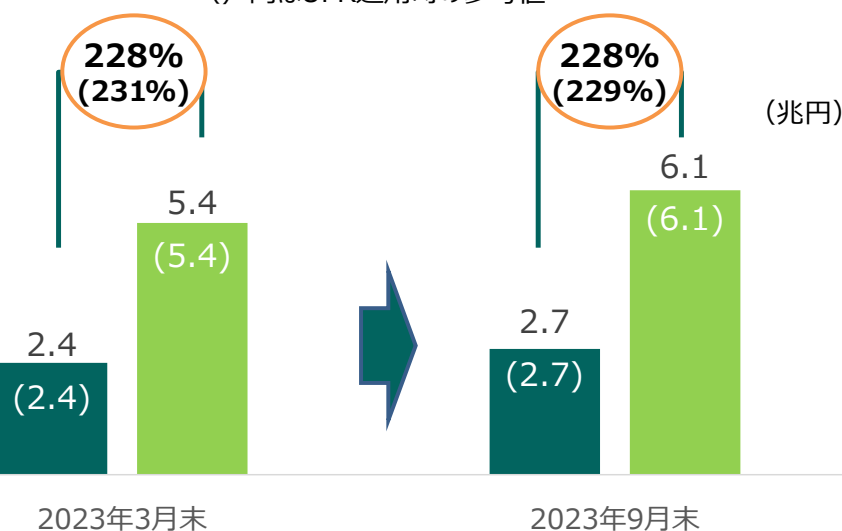
※ E I 損害率の分母となるアード（既経過）保険料は、未経過保険料（除く自然災害責任準備金）・保険料積立金等を調整して算出

※ 「自然災害影響」は、当年度発生国内自然災害および海外自然災害のインカドロスの金額

（ご参考）ESRの状況

ESR^(注1)

■ 統合リスク量^(注2) ■ 時価純資産
() 内はUFR適用時の参考値



＜ESRの主な増減要因＞
(2023年3月末対比)

- ESRは2023年3月末と同水準
- ✓ 政策株式の削減によるリスク量の減少
 - ✓ 収益期待資産への投資拡大によるリスク量の増加
 - ✓ 国内株価の上昇や円安による時価純資産とリスク量の増加

＜市場環境＞

	2023年3月末	2023年9月末	対2023年3月末比
日経平均株価	28,041円	31,858円	+3,817円
国債30年金利	1.26%	1.73%	+0.47pt
為替（ドル円）	134円	150円	+16円

(注1) ESR：エコミック・ソルベンシー・レシオ（＝時価純資産÷統合リスク量）

(注2) 統合リスク量：信頼水準99.5%のVaR（Value at Risk）でリスク量を計測

IFRS 第17号に係る前期遡及適用影響

	2022年度中間期 中間純利益(持分)	2022年度 当期純利益(持分)	2022年度末 純資産
IFRS17遡及適用前	△335億円	1,615億円	3兆562億円
差額	324億円 説明： 主に割引率上昇による 保険負債(発生保険金 に係る負債)の減少	494億円 説明： 同左	832億円 主な内訳： 期首利益剰余金 285億円 当期純利益(持分) 494億円 保険契約準備金評価差額金 26億円 為替換算調整勘定 9億円
IFRS17遡及適用後	△11億円	2,110億円	3兆1,395億円

2023年度業績予想

グループ連結

① トップライン

- ・ 損保子会社の正味収入保険料は、足元の業績および為替の状況を勘案し、年初予想比780億円引上げの4兆1,620億円。
- ・ 国内生保のグロス収入保険料は、足元の業績を勘案し、年初予想比1,000億円引上げの1兆5,810億円。

損保子会社

(億円)

	2022年度	2023年度 (年初予想)	2023年度(今回予想)			
			前期比	増収率	年初予想比	
正味収入保険料	39,332	40,840	41,620	2,287	5.8%	780
三井住友海上	16,298	16,180	16,160	△ 138	△ 0.8%	△ 20
あいおいニッセイ同和損保	13,355	13,600	13,630	274	2.1%	30
三井ダイレクト損保	345	350	350	4	1.4%	-
海外保険子会社	9,329	10,700	11,480	2,150	23.1%	780

生保子会社

(億円)

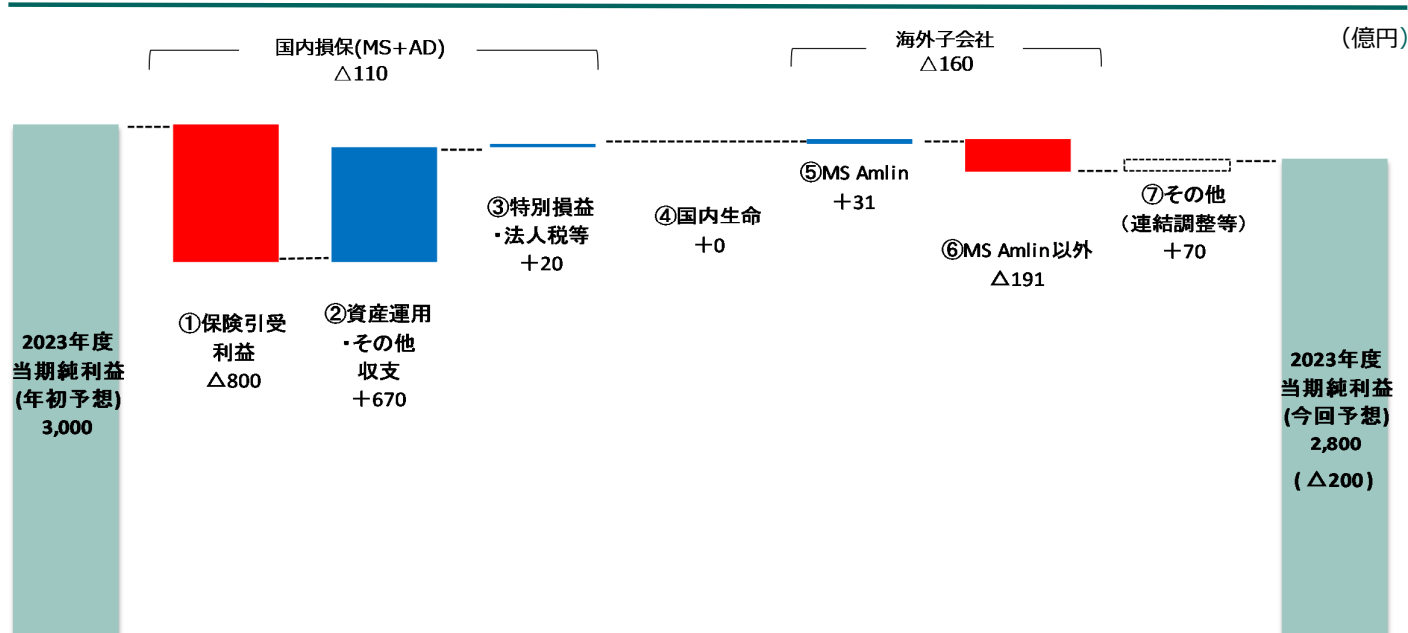
	2022年度	2023年度 (年初予想)	2023年度(今回予想)			
			前期比	増収率	年初予想比	
保険料(グロス収入保険料)*	17,075	14,810	15,810	△ 1,265	△ 7.4%	1,000
三井住友海上あいおい生命	4,871	4,770	4,770	△ 101	△ 2.1%	-
三井住友海上プライマリー生命	12,204	10,040	11,040	△ 1,164	△ 9.5%	1,000
生命保険料	4,584	7,840	8,270	3,685	80.4%	430

* 保険料(グロス収入保険料)は国内生保子会社のみ

②ボトムライン（年初予想との比較）

- 国内損保は、資産運用・その他収支(②)を上げたものの、保険引受利益(①)の減少を主因に△110億円の引下げ
- 国内生保は、MSA生命は年初予想と変わらず。MSP生命も、利ざやの増加やヘッジなどのリスクコントロールによる収益回復から、年初予想と変わらず
- 海外保険子会社は、MS Amlin(⑤) が為替影響を除くと年初予想どおりの着地を見込み、アジアの業績が好調な一方、MS Amlin以外の欧州、米州、海外生保の収支悪化などにより△160億円の引下げ

連結純利益の年初予想比増減要因



③ボトムライン

(億円)

	2022年度	2023年度 (年初予想)	2023年度(今回予想)		
			前期比	年初予想比	
経常利益	2,922	4,200	4,000	1,077	△ 200
三井住友海上	1,412	1,850	1,800	387	△ 50
あいおいニッセイ同和損保	667	900	820	152	△ 80
当期純利益*	2,110	3,000	2,800	689	△ 200
三井住友海上	1,078	1,420	1,350	271	△ 70
あいおいニッセイ同和損保	431	600	560	128	△ 40
三井ダイレクト損保	8	△ 9	△ 19	△ 27	△ 10
三井住友海上あいおい生命	127	250	250	123	-
三井住友海上プライマリー生命	197	160	160	△ 37	-
海外保険子会社	665	1,180	1,020	354	△ 160
その他・連結調整等	△ 400	△ 601	△ 521	△ 121	80
ROE(財務会計ベース)	6.6%	9.5%	8.4%	1.8pt	△ 1.1pt

※連結の当期純利益は、親会社株主に帰属する当期純利益。子会社の当期純利益は出資持分ベース。以下同じ

④ボトムライン（グループ修正利益）

- グループ修正利益は、国内損保事業、海外事業の引下げなどにより、年初予想比△700億円引下げの2,800億円

（億円）

	2022年度		2023年度 (年初予想)	2023年度(今回予想)		
	前年開示金額	IFRS第17号 遡及適用後		前期比 [※]	年初予想比	
グループ修正利益	1,727	2,222	3,500	2,800	577	△ 700
国内損保事業	1,180	1,183	1,790	1,380	196	△ 410
国内生保事業	347	347	450	450	102	-
海外事業	179	670	1,240	940	269	△ 300
金融サービス事業/デジタル・リスク関連事業	20	20	20	30	9	10
その他経営数値目標						
MSA生命 EEV	9,080	9,080	9,600	9,400	320	△ 200
グループ修正ROE	4.8%	6.1%	10.0%	7.5%	1.4pt	△ 2.5pt

※ IFRS第17号遡及適用後の前年度数値と比較している

今回業績予想の主な前提

	三井住友海上	あいおいニッセイ同和損保
市場環境の前提	2023年9月末の水準を想定	
	{ 参考(2023年9月末) 日経平均 31,858円、米ドル 150円、ユーロ 158円、英ポンド 183円 }	
国内自然災害	710億円 (+ 220億円)	560億円 (+ 165億円)
異常危険準備金	370億円 (△ 1億円)	579億円 (+ 268億円)
(火災保険)	繰入 529億円 (+ 66億円)	674億円 (+ 243億円)
	取崩 △ 159億円 (△ 67億円)	△ 95億円 (+ 25億円)
	積増	
異常危険準備金	223億円 (+ 1億円)	255億円 (+ 1億円)
(自動車保険)	繰入 514億円 (+ 322億円)	597億円 (+ 373億円)
	取崩 △ 291億円 (△ 321億円)	△ 342億円 (△ 372億円)
	積増	
法定実効税率	27.9%	

※ 海外自然災害について、MS Amlinは322億円(△90億円)

あいおいニッセイ同和損保は242億円(+127億円)

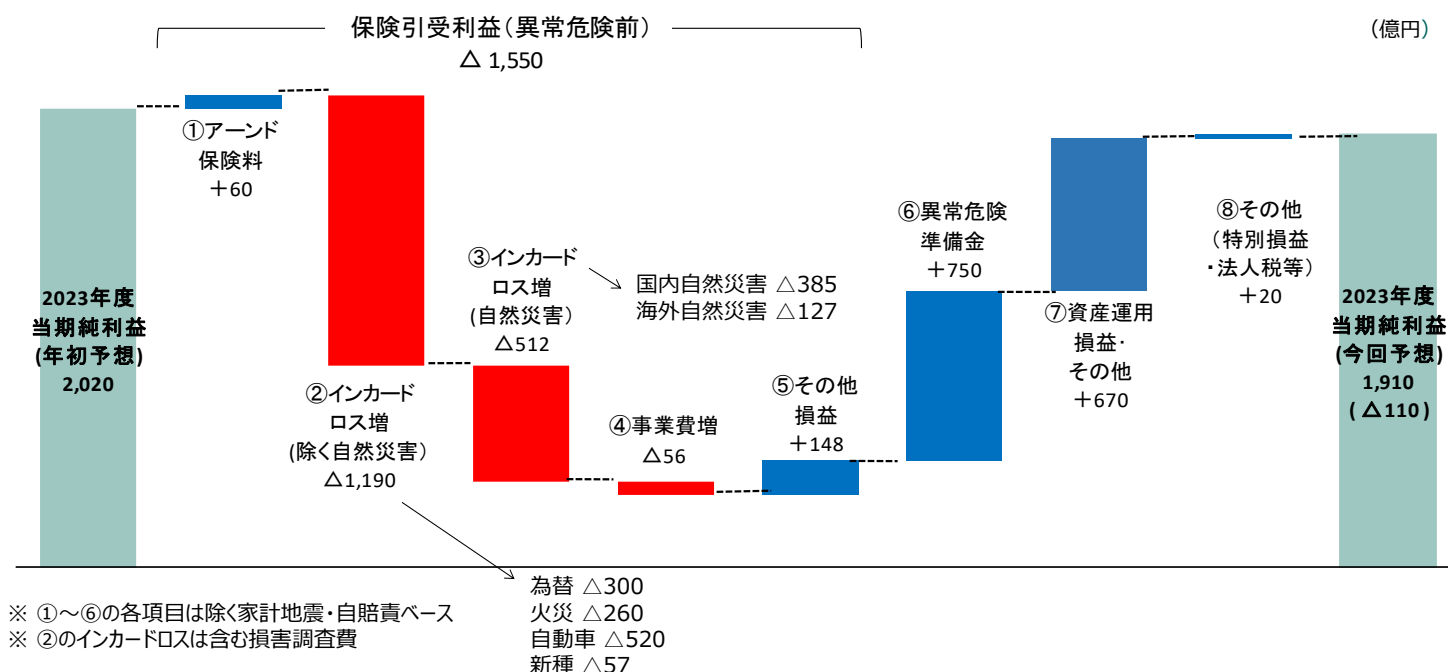
※ ()内は年初予想比

国内損害保険会社

①ボトムライン (MS+AD)

- ・ 保険引受利益(異常危険前)は、自然災害ロス、インフレ影響を含む自動車保険のロスの増加などにより引下げ
- ・ 資産運用損益は、利配収入の増加や有価証券売却益の増加により引上げ

連結純利益(MS+AD)の年初予想比増減要因



国内生命保険会社

①三井住友海上あいおい生命

主要項目

(億円)

	2022年度	2023年度 (年初予想)	2023年度(今回予想)		
			増減率/前期差	年初予想比	
新契約高 [※]	14,566	13,120	14,078	△3.4%	957
新契約年換算保険料 [※]	271	293	289	6.3%	△4
保有契約高 [※]	232,499	227,444	226,747	△2.5%	△696
保有契約年換算保険料 [※]	4,405	4,416	4,390	△0.3%	△26
保険料(グロス収入保険料)	4,871	4,770	4,770	△2.1%	-
経常利益	278	456	443	164	△14
当期純利益	127	250	250	123	-

※新契約高、新契約年換算保険料、保有契約高、保有契約年換算保険料は、個人保険・個人年金保険の合計

主要項目

(億円)

	2022年度	2023年度 (年初予想)	2023年度(今回予想)		
				増減率/前期比	年初予想比
新契約高	12,798	10,771	12,559	△ 1.9%	1,788
保有契約高	69,322	71,130	77,613	12.0%	6,483
保険料(グロス収入保険料)	12,204	10,040	11,040	△ 1,164	1,000
経常利益	310	260	268	△ 42	8
当期純利益	197	160	160	△ 37	-

海外保険子会社

①2023年度業績予想

海外保険子会社

(億円)

	2022年度		2023年度 (年初予想)	2023年度(今回予想)		
	前年開示金額	IFRS第17号 遡及適用後		前期比 [※]	年初予想比	
正味収入保険料	9,341	9,329	10,700	11,480	2,150	780
アジア	2,222	2,214	2,387	2,445	230	58
欧州	6,453	6,448	7,454	8,043	1,594	589
米州	665	665	859	992	325	133
当期純利益	157	665	1,180	1,020	354	△ 160
アジア	285	312	338	379	66	41
欧州	△ 222	314	530	491	175	△ 39
米州	31	35	107	20	△ 15	△ 87
海外生保	62	2	205	131	127	△ 74

※ IFRS第17号遡及適用後の前年度数値と比較している

② (ご参考) MS Amlin 2023年度(2023年1-12月期)業績予想^{※1}

- 当期純利益は年初計画通りとなる291百万ポンドを見込む
- 保険サービス損益は、市場のハード化等を背景とした好調なトップラインとそれに伴う金利割引の拡大等を主因に年初予想から39百万ポンド増の350百万ポンドを見込む
- 金融損益は、不動産関連投資の不振による投資収益の悪化を主因に年初予想から26百万ポンド減の34百万ポンドを見込む

(百万ポンド)

	2022年度 (IFRS17適用後)	2023年度 (年初予想)	2023年度(今回予想)		
			前期比	年初予想比	
保険サービス損益	110	311	350	240	39
金融損益	201	60	34	△ 168	△ 26
うち投資損益	△ 108	194	166	274	△ 28
うち保険金融費用(金利変動) (△)	318	0	37	△ 281	37
うち保険金融費用(利息相当等) (△)	△ 9	△ 134	△ 170	△ 161	△ 36
その他損益	△ 52	△ 62	△ 71	△ 19	△ 9
当期純利益	193	291	291	98	△ 0

【MS Amlinの保険負債に関する補足】
新会計基準では、保険負債は現在価値に割引いて評価される
収支上の影響は以下のとおり

- (1) 当年度引受分の保険負債および過年度引受分の保険負債の変動に係る割引は「保険サービス損益」で認識される
- (2) 過年度引受分の保険負債について、金利変動による割引効果の変動および時間が経過することによる割引額の減少は「保険金融費用」で認識される

【参考】保険サービス損益の主な内訳等^{※2}

正味収入保険料	3,601	4,061	4,296	694	235
アード保険料	3,199	3,745	3,864	665	119
インカードロス(割引後)	1,947	2,100	2,161	214	61
手数料・社費	1,158	1,335	1,349	191	14
EI 損害率	60.8%	56.1%	55.9%	△4.9pt	△0.2pt
EI 事業費率	36.2%	35.7%	34.9%	△1.3pt	△0.8pt
EI コンバインドレシオ	97.0%	91.8%	90.8%	△6.2pt	△1.0pt

大口自然災害ロス(割引前) (百万ポンド)

2022年度	2023年度(今回予想)		
	前期比	年初予想比	
180	183	3	△66

※1 現地管理ベース(当期から主要現法の単純合算値としている)。なお、過年度保険負債移転に係る出再保険料等は保険勘定から除く

※2 正味収入保険料はIFRS4ベース。アード保険料以下は保険サービス損益の内訳を従来の表示区分に組み替えている。ただし、インカードロスが割引後であるなど、取扱いはIFRS17ベース

国内損害保険 主要2社 業績予想①

(億円)

	2社合計(単純合計)			三井住友海上(単体)			あいおいニッセイ同和損保		
		前期比	年初 予想比		前期比	年初 予想比	(単体)	前期比	年初 予想比
正味収入保険料^{※1}	29,790	136	10	16,160	△ 138	△ 20	13,630	274	30
アード保険料 ^{※2}	27,323	884	60	15,026	327	47	12,297	557	13
インカードロス(含む損害調査費) ^{※2} (ー)	18,690	779	1,702	10,011	152	690	8,679	627	1,012
保険引受に係る事業費 ^{※2} (ー)	9,140	59	56	4,945	18	2	4,195	41	54
諸手数料及び集金費 ^{※2}	5,676	△ 31	△ 11	2,917	△ 85	△ 12	2,759	54	1
営業費及び一般管理費 ^{※2}	3,464	90	68	2,028	103	15	1,436	△ 13	53
保険引受利益(異常危険準備金反映前)	△ 393	148	△ 1,550	62	255	△ 631	△ 455	△ 106	△ 919
異常危険準備金損益	673	283	750	278	244	391	395	39	359
保険引受利益	280	432	△ 800	340	499	△ 240	△ 60	△ 66	△ 560
EI損害率^{※2}	68.4%	0.7pt	6.1pt	66.6%	△ 0.5pt	4.4pt	70.6%	2.0pt	8.2pt
正味損害率 ^{※1}	66.3%	1.0pt	3.1pt	65.8%	1.5pt	2.3pt	66.9%	0.3pt	4.1pt
正味事業費率 ^{※1}	33.5%	0.1pt	0.2pt	33.0%	0.5pt	0.1pt	34.2%	△ 0.4pt	0.3pt
コンバインド・レシオ^{※1}	99.8%	1.1pt	3.3pt	98.8%	2.0pt	2.4pt	101.1%	△ 0.1pt	4.4pt

※1 全種目ベース

※2 除く家計地震・自賠責ベース

※ アード(既経過)保険料は、未経過保険料(除く自然災害責任準備金)・保険料積立金等を調整して算出

(億円)

	2社合計(単純合計)			三井住友海上(単体)			あいおいニッセイ同和損保		
		前期比	年初 予想比		前期比	年初 予想比	(単体)	前期比	年初 予想比
保険引受利益	280	432	△ 800	340	499	△ 240	△ 60	△ 66	△ 560
ネット利息及び配当金収入	1,654	62	136	1,123	28	80	531	34	56
有価証券売却損益	1,385	79	642	688	△ 226	193	697	305	449
有価証券評価損 (一)	253	△ 31	190	218	△ 43	188	35	12	2
資産運用・その他収支	2,340	107	670	1,460	△ 111	190	880	219	480
経常利益	2,620	540	△ 130	1,800	387	△ 50	820	152	△ 80
特別損益	△ 108	△ 1	1	△ 17	△ 19	2	△ 91	18	△ 1
当期純利益	1,910	399	△ 110	1,350	271	△ 70	560	128	△ 40

国内損害保険 主要2社 種目別正味収入保険料

正味収入保険料

(億円)

	2社合計(単純合計)		三井住友海上(単体)		あいおいニッセイ同和損保	
		増収率		増収率	(単体)	増収率
火災	4,523	△7.8%	2,459	△7.6%	2,064	△8.1%
海上	808	△3.7%	741	△2.6%	67	△14.6%
傷害	2,186	2.9%	1,577	3.8%	609	0.5%
自動車	14,948	2.8%	6,954	1.0%	7,994	4.5%
自賠責	2,565	△6.9%	1,314	△7.5%	1,251	△6.2%
その他	4,761	6.0%	3,116	2.1%	1,645	14.3%
合計	29,790	0.5%	16,160	△0.8%	13,630	2.1%
除く家計地震・自賠責	27,222	1.2%	14,844	△0.2%	12,378	3.0%

EI損害率

	2社合計(単純合計)		三井住友海上 (単体)		あいおいニッセイ 同和損保(単体)	
		前期比		前期比		前期比
火災	79.7%	△0.6pt	77.9%	1.3pt	81.8%	△2.9pt
海上	57.2%	△3.0pt	55.2%	△3.6pt	78.3%	2.5pt
傷害	56.1%	△7.0pt	55.4%	△8.3pt	57.9%	△3.8pt
自動車	68.5%	4.9pt	68.1%	4.9pt	68.8%	4.8pt
その他	63.9%	△7.6pt	61.9%	△9.7pt	68.0%	△3.4pt
合計(除く家計地震・自賠償)	68.4%	0.7pt	66.6%	△0.5pt	70.6%	2.0pt
(除く自然災害影響)	62.9%	△0.5pt	61.9%	△1.6pt	64.1%	0.9pt

※ インカドロス = 正味支払保険金 + 損害調査費 + 支払備金積増額

※ E I 損害率の分母となるアード (既経過) 保険料は、未経過保険料 (除く自然災害責任準備金) ・保険料積立金等を調整して算出

※ 「自然災害影響」は、当年度発生国内自然災害および海外自然災害のインカドロスの金額

この資料では、社名表示に次の略称を使用している箇所があります。

- ・ MS & ADホールディングス、持株会社 (= MS & ADインシュアランス グループ ホールディングス(株))
- ・ MS & AD (= MS & ADインシュアランス グループ)
- ・ 三井住友海上、MS (= 三井住友海上火災保険(株))
- ・ あいおいニッセイ同和損保、AD (= あいおいニッセイ同和損害保険(株))
- ・ 三井ダイレクト損保、MD (= 三井ダイレクト損害保険(株))
- ・ 三井住友海上あいおい生命、MSA生命 (= 三井住友海上あいおい生命保険(株))
- ・ 三井住友海上プライマリー生命、MSP生命 (= 三井住友海上プライマリー生命保険(株))
- ・ MS Amlin (= AUL、MS Re、AISE、ACSを主とする各事業の合計)

- AUL (= MS Amlin Underwriting Limited)
- MS Re (= MS Reinsurance※)
- AISE (= MS Amlin Insurance SE)
- ACS (= MS Amlin Corporate Services Limited)

※MS Amlin AGが2022年9月より使用開始したブランドネーム

「グループ修正利益、修正純資産、グループ修正ROE」の定義

グループ修正利益 = 連結当期利益 + 異常危険準備金等繰入・戻入額 - その他特殊要因（のれん・その他無形固定資産償却額等） + 非連結グループ会社持分利益

修正純資産 = 連結純資産 + 異常危険準備金等 - のれん・その他無形固定資産

グループ修正ROE = グループ修正利益 ÷ 修正純資産（期初・期末平均）

予想および見通しに関する注意事項

この資料に記載されている内容のうち、MS&ADホールディングスならびにグループ各社の将来に関する計画や戦略、業績に関する予想や見通しは、現時点で把握できる情報から得られた当社グループの判断に基づいています。実際の業績は、さまざまな要因によりこれらの業績見通しと異なる結果になり得ることをご承知おき下さいますようお願いいたします。実際の業績に影響を及ぼし得る要因としては、(1)事業を取り巻く経済動向、(2)保険業界における競争激化、(3)為替レートの変動、(4)税制など諸制度の変更、などがあります。

お問い合わせ先

MS&AD インシュアランス グループ ホールディングス株式会社
広報・IR部

TEL: 03-5117-0311

URL: <https://www.ms-ad-hd.com/ja/ir/contact.html>